



あさひ台

学 校 報
第 5 2 4 号
R6. 5. 30
五城目小学校

学校教育目標

夢高く 心たくましく 学び合う五小の子
～ つなぐ ひらく つくる ～

越える学校

9団体、43名。4・5月で本校の視察に訪れた方の数です。昨年度、一昨年度も視察は多かったのですが、今年度は4月からたくさんの方が訪れています。雑誌「pen」で紹介されたことも大きな理由のようです。

視察を希望される方々は、「どのようにして学校建築に地域住民の声を取り入れたのか」「学習環境をどのように活用しているのか」「子どもと地域住民がともに学ぶ仕組みをどのように整えたのか」というようなことに興味をもっているようです。

「スクールトーク」と呼ばれる学校改築のための町民対話の取組は、3年間で10回行われました。その記録は「五城目小学校新校舎づくりの軌跡ごじょうめ未来ノート」にまとめられています。改めて見てみると、「地域や海外とのつながりがあたりまえの環境に」「どこでも子どもを見守れるような空間設計」「一生通える小学校」など、たくさんの願いが記されていました。それらを受けて掲げられた学校建築のコンセプトが「越える学校」です。未来ノートには次のような記載があります。

今まであたりまえとされていた常識を、五城目町は越えていく。地域にどっしりと根ざしながらも、様々な境界線を越えていく。校舎の境界を越えて、子どもたちが地域に飛び出す。町民が学校に参画する。年齢の境界を越えて、大人たちがまた学び出す。地域の境界を越えて、世界中とつながり学び合う。お題目だけじゃない、本当の意味で“地域とともにつくる”学校へ。五城目小学校は「越える学校」として、新たな一歩を踏み出す。

本校校舎はすべてが学び場になります。今年度も職員は、この学習空間をどう活用するか挑戦を続けています。また、大人も通える「みんなの学校」は、6月から始まります。

校舎や事業などの恵まれた教育環境をフルに活用し、「夢高く心たくましく学び合う五小の子」を育てていきます。

ねらいが達成できました

創立150周年記念大運動会では、随所に子どもたちの活躍が見られました。途中で転んでもあきらめず最後まで走った子ども。ゴールした後、転んでしまった子どもにやさしく声をかけた係の子ども。火曜日の朝、「運動会めっちゃ頑張った！」と教えてくれた子ども。たくさんの子どもが、運動会のねらいを達成したようです。あたたかい応援、ありがとうございました。

ある朝、集団登校の6年生が、1年生をおぶって歩いてきました。ふざけているのではないことが、6年生の真剣な目で分かりました。「どうしたの？」と声をかけると「途中で転んだんです。」という返事。そして、後ろを歩いてきた別の6年生は、その二人分のランドセルを両手に持って歩いていました。6年生の優しさと勇気と連携プレーに、大きな感動を覚えました。（幸い1年生に大きなけがはありませんでした。）

(校長 島崎徳之)